

ロボットによる 1F-2号機 トーラス室調査状況写真 (東電撮影)

【トーラス室北側 S/C マンホール】



【トーラス室南東側 S/C マンホール】



調査場所：原子炉建屋地下、格納容器下部のトーラス室 (圧力抑制室を収納する部屋) 内部とそこに見える圧力抑制室の上部 2ヶ所にある作業用マンホール (直径 1 m) をロボット (サーベイランナー) が調査・撮影

調査目的：格納容器を水で満たす作業に向け、放射能汚染水の漏出箇所を特定すること

2号機の現状：核燃料を冷やすために日量 200 t を原子炉に注水。それによって放射能汚染水が圧力抑制室に流れ込み、さらに周辺の建屋に漏出。核燃料取出しには、漏出を止めて格納容器を水で満たす必要がある

調査結果：ロボットが走行した範囲では設備の大きな損傷や汚染水の漏洩は確認できなかった
東電は、炉心注水に伴う汚染水のタービン建屋などに漏出する経路を特定しようとしているが、損傷が確認できなかったことで、汚染水の抑制や廃炉に向けた修復作業が難航する可能性
記者会見「今回調べた場所以外から漏れている可能性があるが、水没しているとみられる抑制室下部の調査自体は難しい」

【トールラス室調査で使用したロボット (サーベイランナー)】



【仕 様】

全 長：505 mm (フリッパー伸長時 755 mm)

全 幅：510 mm

全 高：830 mm (クローラー部約 165 mm)

重 量：45 kg

昇降角：45° (最大)

昇降段差：蹴上 235 mm (最大)

稼働時間：5 時間 (バッテリー)

走行速度：約 2 km/h (最高)

有線通信装置：400 m 光ファイバー

装 備：線量計 / 高性能カメラ 1 台 (パン・チルト・光学ズーム) / 広角カメラ 4 台 (前 / 後)

転倒防止機能付き